



申14号 組合員と家族の生活確保とモチベーション維持・向上を求める 2021年度夏季手当等に関する緊急再申し入れ 団体交渉を行う ①

要求項目

組合員の声に基づく

2021年 夏季手当
基準内賃金 2.4 ヲ月

新型コロナウイルス
感染症 特別手当
一律 5 万円

JR東日本グループの
エンゲージメント向上
びゅう商品券 5万円

会社は 2.0 ヲ月という
回答を変えず

対立!

組合員の声を突きつけるも、回答は変わらず。

納得できる回答ではなく、妥結できず!

これが申14号提出の趣旨だ! (要点抜粋)

- 2.0 ヲ月という回答は、第1回、第2回交渉で組合から主張させて頂いた組合員の声の認識が一致しておらず、受け止められていない。
- コロナ禍における指定公共機関の使命を果たすべく、経営を支えてきた組合員・社員の奮闘、創造的にコストダウンを担い、コロナ禍における新たな業務を担ってきた 組合員・社員の努力に報いる必要がある。
- 昨年より下回ると生活設計ができない。7 割の社員が夏季手当を生活費に充てている。夏季手当は生活費として位置づいている。そういう声があるのは認識しているのか。
- 生計が苦しくなっている中、黒字化に向けた構造改革に真剣に向き合い、努力を重ね、やっと黒字予測が出た中で、職場を見れば、コストダウンをした金額で物が買われている。
- 昨年は国からのコロナ給付金などがあり、なんとかやりくりをしてきた。そのような中、黒字予測が出て、昨年以上の夏季手当を求めた結果、昨年を下回る回答であった。
- 努力を重ね黒字という予測が出される中、なぜ賃金が大幅にカットされるのか。
- 前年は平均50万円のカット、さらに今夏季手当で15万円のカット、昨年の夏季手当は 2.4 ヲ月、年末手当は 2.2 ヲ月、今夏季手当は 2.0 ヲ月。どこまで我慢をすればいいのか。どこまで身を切って生活を続けなければならないのか。そういう不満や不安が渦巻いている。そのことは認識するべきだ。
- 会社の回答書にもある通り、「社員一人ひとりが明るく自信をもって果敢にチャレンジする。」そのためには、人への投資が必要であり、現在の経営状況を踏まえれば、不満はあるが、生活をしていく為にはせめて昨年と同月数が必要だ。
- 回答(2.4 ヲ月)があれば、黒字へ向かい社員一丸となって、構造改革にチャレンジできる。「決意と実行」を行う、組合員と家族の生活確保、モチベーションの維持・向上のための極めて建設的な組合からの提起だ。これが申14号の趣旨だ。この趣旨を受け止めて頂き、2.4 ヲ月の回答を求める。

会社は職場の声を受け止め、 赤字下の職場の努力に報いるべきだ!

